「日本スポーツ栄養研究誌」執筆要項

1．投稿原稿の構成

投稿原稿は、以下に示すように1）表紙、2）本文、3）和文抄録、4）英文抄録（総説、原著、短報の場合のみ）、5）図表で構成する。各項目の詳細は以下のとおりである。

1）表紙

論文タイトル、投稿者氏名、所属機関および部署名、連絡責任者の情報（氏名、郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス）、原稿の区分（総説、原著、短報、スポーツ栄養マネジメント報告、実践活動報告、症例報告、実践活動／症例報告ショートレポート、資料のいずれか）、図表の数、キーワード（3～5個、ショートレポートの場合は不要）を記載する。著者の貢献について特記事項がある場合は記載する。

2）本文

原則以下の項目に沿って本文を構成すること。

①原著・短報の場合

I．緒言、Ⅱ．方法、Ⅲ．結果、Ⅳ．考察、Ⅴ．結論、謝辞、利益相反、著者貢献、文献

②スポーツ栄養マネジメント報告の場合

I．スポーツ栄養マネジメントの目的、Ⅱ．対象とマネジメント内容、Ⅲ．結果、Ⅳ．考察、Ⅴ．結論、謝辞、利益相反、著者貢献、文献

③実践活動報告の場合（ショートレポートを含む）

I．事業・サポート活動の目的、Ⅱ．事業・サポート活動の内容、Ⅲ．事業・サポート活動の成果、Ⅳ．今後の課題、謝辞、利益相反、著者貢献、文献

但し、ショートレポートについては著者貢献の記述は不要とする。

④症例報告の場合（ショートレポートを含む）

I．はじめに、Ⅱ．症例、Ⅲ．考察、Ⅳ．結論、謝辞、利益相反、著者貢献、文献

但し、ショートレポートについては著者貢献の記述は不要とする。

⑤総説および資料の場合

本文（必要に応じて見出しをつける[下記 3－11 を参照]）、謝辞、利益相反、著者貢献、文献

3）和文抄録

原則以下の項目に沿って和文抄録を構成すること。

①原著・短報の場合

【目的】、【方法】、【結果】、【結論】に分けて、600 字以内にまとめる。

②スポーツ栄養マネジメント報告の場合

【目的】、【マネジメント内容】、【結果】、【結論】に分けて、600 字以内にまとめる。

③実践活動報告の場合

【目的】、【活動内容】、【成果】、【今後の課題】に分けて、600 字以内にまとめる。

④症例報告の場合

【症例】、【結論】に分けて、600 字以内にまとめる。

⑤実践活動/症例報告ショートレポートの場合

概要を150 字以内にまとめる。

⑥総説および資料の場合

本文の内容を 600 字以内にまとめる（必ずしも項目毎に分ける必要は無い）。

4）英文抄録

総説、原著、短報については英文抄録を作成すること。英文抄録の最初には英語の[Title]、[Author（s)]、[Affiliation（s)]を記載する。原著・短報については［Aim]、[Methods]、[Results]、[Conclusion］の項目に沿って構成し、250words以内にまとめる。総説の場合には、項目毎に分ける必要は無い。

2．原稿の作成フォーマット

1）パーソナルコンピューターを用い、本文は Ａ4 判用紙を縦置きとして、横書きで作成する。図表は本文とは別のファイルに分け、それぞれ下記の汎用ソフトで作成する。
本文ファイル：Microsoft Office Word
図表ファイル：Microsoft Office Word、Excel、PowerPoint、PDF、JPEG
2）１頁あたり40字×25行とし、余白を上下各30mm、左右各20mmに設定する。
3）フォントは、10.5ポイント以上のものを使用すること。
4）表紙から和文抄録もしくは英文抄録までには、通し頁（原稿下部の中央）および行番号（全頁での通し番号）をすべての行につける。
5）数字には算用数字を用い、数字や英字は半角とする。
6）図、表、写真には［図１]、[表１]、[写真１］等の通し番号をつけ、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定する。
7）実践活動/症例報告ショートレポートは、概要（150文字）を含めて全体で3,000文字以内とする。なお、図・表・写真は小さめのもので、１つあたり500字と換算する。

3．原稿作成上の注意

1）文章は、ひらがな、新かなづかいとし、漢字は原則として常用漢字とする。
2）栄養学用語は、日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典」、医学用語は、日本医学会医学用語管理委員会編「医学用語辞典」等に準ずること。
3）機器、食品、試薬、材料、アプリケーションやオンラインサービスなどの商品名は論文タイトル、キーワードには使用しない。また、要旨中にも可能な限り使用しない。論文中に記載する場合は、原則として、本文中の初出時のみ「一般名（商品名：企業名※正式名称を記載)」と記載し、以降は一般名で記載する。機器等の商品名を繰り返し記載することが避けられない論文内容においても、編集委員会にて審査し修正等を依頼する場合がある。
4）数量は算用数字を用い、桁数の多い数は３桁ごとにカンマで区切る。ただし、ページ数、通算番号（文献、特許等）の数字にはカンマを入れない。主な単位は次のように表す。km、cm、mm、nm、kg、g、mg、L、mL、kcal, mmol 等とする。
5）論文中、繰り返し使われる語句に略語を用いてかまわないが、初出の時には省略しない。
6）普通に用いられている外国語の術語、物質名などはカタカナとする（ 例： Paper chromatography→ペーパークロマトグラフィー)。カタカナにすることによって意味が不明瞭になるおそれがあるものはこの限りではない。
7）ビタミン名については、化学的意味が重要な場合は化合物名（例：チアミンなど）を用いるが、栄養学的意味に主眼をおいて用いる場合はビタミン名（例：ビタミンB_1など）を用いてもよい。
8）データの統計学的取り扱いについては、統計学の専門家もしくは統計学に詳しい人に十分相談の上、正しい取り扱いをするように特に留意する。市販のコンピューターソフトを利用して処理した場合は、利用したソフト名（バージョン）を本文中に記載する。
9）図や表を引用・転載した場合には、投稿前に著作権者の承諾を得て、それを証明する書類（書式自由）をあわせて提出する。引用文献番号に加えて、図や表の下に出典を明示する。
10）本文中の年は西暦で記載する。文献に関しては、「４．文献リスト」の項を参照のこと。
11）本文は、大見出しI. II. III. …、中見出し１．２．３．…、小見出し１） ２） ３）…、などを用いて明瞭に区別する。
12）文献は論文に直接関係のあるものにとどめ、引用順とし、本文の最後に一括して記載する。本文中の引用文献番号は右肩付とする。連続する２つの文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る（例：１, ２)。連続しない３つ以上の文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る（例：１, ３, ５, ７, 10)。連続する３つ以上の文献を引用する場合、最初の文献番号と最後の文献番号を「～」でつなぐ（例：２ ～ ５)。また、本文中に著者名で引用する場合、著者が２名以下の場合にはすべての姓を記し（例：木戸・恩田[1)])、３名以上の場合には最初の著者の姓を記し「ら」をつける（例：田口ら[1)])。文献は、一般的に検索可能な公刊文献に限り、入手困難、検索不可能な文献は避ける（文献として引用できないものの例：社内資料、未発表論文、公刊されない学位論文、カタログ等)。
13）著者貢献については、全ての著者の貢献についてイニシャルを用いて記載する（例:著者○○、△△は研究計画の立案、データ収集を行った。著者○○、□□はデータ解析および原稿の執筆を担当した。すべての著者は、原稿を批判的にレビュー・修正し、投稿を承認した)。

4．文献リスト

引用文献の記載は、下記のように欧文雑誌名は略記し、イタリック表記とする。和文雑誌名は略記しない。

1）【雑誌】

①原著・短報、スポーツ栄養マネジメント報告、実践活動報告、症例報告、総説、資料の場合

著者名（和文はフルネームで、欧文は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで3名まで記し、それ以上の場合は「，他」、「, et al.」を用いて略記する）：論文標題，雑誌名，巻数，初頁–終頁（発行年）

（和）金田芙美，菅野幸子，佐野文美，他：我が国の子どもにおける「やせ」の現状：系統的レビュー , 栄養学雑誌, 62, 347-353（2005）

（洋）Rosell, M.S., Hellenius, M.L.B., de Faire, U.H., et al.: Associations between diet and the metabolic syndrome vary with the validity of dietary intake data, *Am. J. Clin. Nutr.*, 78, 84-90（2003）

②実践活動/症例報告ショートレポートの場合

著者名（和文はフルネームで、欧文は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで3名まで記し、それ以上の場合は「，他」、「, et al.」を用いて略記する）：雑誌名，巻数，初頁–終頁（発行年）（※下記のように論文タイトルを省略して記載する）

（和）金田芙美，菅野幸子，佐野文美，他：栄養学雑誌，62，347-353（2005）

（洋）Rosell, M.S., Hellenius, M.L.B., de Faire, U.H., et al.: Am. J. Clin. Nutr., 78, 84-90（2003）

2）【単行本（報告書も含む）】著者名：論文標題，書名，（編者），pp .初頁–終頁（発行年），出版社，所在地

（和）健康・栄養情報研究会編 : 厚生労働省平成 16 年国民健康・栄養調査報告，pp.90（2006），第一出版，東京

（洋）WHO : The World Health Report 2002 : Reducing Risks, Promoting Healthy Life（2002），WHO, Geneva

3）【翻訳本】著者名：原著名/訳者名，書名，pp.初頁–終頁（発行年）出版社，所在地

Willet, W.: Nutritional Epidemiology，2 nd ed./田中平三監訳，食事調査のすべて― 栄養疫学―（第 2 版），pp. 93-97（2007），第一出版，東京

4）【インターネット上の文献】著者名*：表題名*，URL，（アクセス日*）

文部科学省，厚生労働省：疫学研究に関する倫理指針，http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/ikenkyu/ekigaku/sankousiryo19kaisei.html，（2008年12月20日）（注*：明らかな場合。）

原則として、学術論文、単行本、翻訳本を引用すること推奨する。但し、公的機関が発表する資料、データベースなどでインターネット上にのみ存在するものに関しては引用を認める。